

## 研究紹介

### 文化多様体解析－意識の国際比較－

データ科学研究系教授 吉野 諒三

#### 1. 「日本人の国民性」調査

統計数理研究所では1953年以来、「日本人の国民性」に関する調査を続けている。この調査の先駆として、1948年に関連分野の研究者による「日本人の読み書き能力調査」がある。この背景には、GHQの一部が民主化政策を考える際に、教育と日本語の関係を問題視し、ローマ字化すべきと考えた経緯があったが、調査の結果、日本人の能力が十分高い事実が確認され、国語のローマ字化が阻止されたと言われている。実際には世界の情勢や占領下の検閲と無関係ではなかったであろうと想像するが、いずれにせよ、「読み書き能力」調査は、統計的「標本抽出理論」の実践的重要性を確認させた。

他方で、これは戦後民主主義を発展させる科学的「世論調査」の基盤を整える契機ともなった。マスメディア各社はGHQの指示により、統計数理研究所の指導の下で、科学的な世論調査を確立していったのである。戦時中にできた機関が次々と廃止されていく中で、統計数理研究所（開所1944年）は、戦後民主主義の科学的基盤を支える使命を担い、新たに出発したのであった。この流れの中で「日本人の国民性」調査が開始され、今日では、内閣府の「社会意識に関する世論調査」、NHKの「生活時間調査」と共に日本の三大標本調査として有名になった。さらに、米国の「一般

社会調査」や「世界価値観調査」など、世界各国の大規模な調査や国際調査を開始させる刺激となった。

#### 2. 「意識の国際比較調査」

この研究は、1971年頃から、国民性をより深く考察する目的で日系人を初め、他の国の人々との比較調査へと拡張されてきた。言語や民族の源など、重要な共通点がある国々を比較し、似ている点、異なる点を判明させ、その程度を測ることによって、初めて統計的「比較」の意味がある。この比較の連鎖を徐々に拡張し、やがてはグローバルな比較も可能になろう。この方針の下で、「連鎖的調査分析」の方法論を確立した。国際比較では、翻訳の問題、各国固有の調査方法の違いの問題など、そもそも国際比較など可能なかが大問題となる。我々はこの「国際比較可能性」を追求し、計量的文明論を確立するため、「データの科学」（吉野、2001）を試行錯誤している。

これまでの我々の主要な調査には、特別推進研究「意識の国際比較」（日米欧の7カ国）、ハワイやブラジルや米国西海岸の日系人調査、「東アジア価値観国際比較」（日中韓台シンガポール）などが含まれる。これらについては、統計数理研究所の研究レポートや、ホームページの研究紹介の一部として順次公開されている。

なお、余談ではあるが、総務庁（現内閣府）の「青少年の意識の国際比較」は、1972年以来の時系列国際比較調査として今日まで継続している貴重な事業であるが、これは当時、総務庁青少年対

策本部に在職されていた、千石保氏（現青少年問題研究所・所長）、遠山敦子氏（元文部科学大臣）が、統計数理研究所の西平重喜所員（現名誉所員）と共に、開始されたのであった。

### 3. 「信頼の世紀」に

#### －計量的文明論の確立に向けて－

新世紀を迎え、伝統的な産業社会から高度情報化社会へと移りつつある世界において、これまでの人間関係や人々の信頼感のあり方にも急激な変化が見られる。我々は国際比較研究の対象として、近い将来、世界の一極になると想定される東アジアに着目するようになった。この研究を推進する枠組みが、「文化の多様体解析 (cultural manifold analysis, CULMAN)」(吉野、2005) であり、その確立のために試行錯誤している最中である。

### 参考文献

- 林知己夫 (2000). これからの国民性研究－人間研究の立場と地域研究・国際比較研究から計量的文明論の構築へ－. 統計数理, 48(1), 33-66.
- 林知己夫, 鈴木達三, 吉野諒三 他 (1998). 国民性7か国比較. 出光書店.
- Inkeles, A. (1996). National Character. Transaction Publishers. 「国民性論」吉野諒三訳 (2003). (付章, 吉野原著「日本における国民性研究の系譜」). 出光書店.
- 吉野諒三 (2001). 「心を測る」－個と集団の意識の科学－. データの科学シリーズ. 朝倉書店.
- Yoshino, R. (2002). A time to trust. Behaviormetrika. Vol. 29 No.2, 231-260.
- 吉野諒三 (2005). 東アジア価値観国際比較調査－文化多様体解析 (CULMAN) に基づく計量文明論の構築へに向けて－. Vol.32, No.1, 133-146.